

小学校入学前後の子どもの不安の変化

-保護者との比較とその要因に関する一考察-

○伊藤輝子 細川かおり
(鶴見大学短期大学部)

岩崎洋子 朴 淳香
(日本女子大学)

《1》目的

発表者らは、小学校入学に関する子どもと保護者の不安やその要因に関して本学会（49 回～53 回大会）で発表してきた。その結果、子どもと保護者の不安には差があり、保護者の方が不安が高い傾向があった。不安の高い項目として、子どもは「勉強」「トイレ」「着脱」であり、保護者は「先生」「給食」「勉強」「友達」であった。また、入学前と入学後（8ヶ月）の変化では入学後に不安が低下した項目は「勉強」「着脱」「先生」であり、不安が上昇した項目は「起床」「登校」「トイレ」であった。従来の研究では、十分な被験者数を得ていないことが統計的課題としてあった。また、入学前と入学8ヶ月後の不安の変化に関して、小学校の教育や子どもの生活状況の変化が近年著しいことが、不安の要因に影響を与えるのではないかと推察された。

本研究では、さらに被験者を加えた上で、子どもと保護者の不安の要因を明らかにし、入学前と後で子どもの不安がどのように変化したか、4年間で不安の要因が変化しているのかを合わせて検討することとした。また、不安得点が大きく変化した子どもに関して、教師の行動評定やインタビューを参考に事例をあげて検討することとした。

《2》方法

- 1) 対象児・者 私立S幼稚園の来年度入学予定児とその保護者を対象とした。

有効対象児（人数）

	入学前			入学後		
	計	男児	女児	計	男児	女児
97年度	72	43	29	43	19	24
98年度	138	77	61	44	23	21
99年度	122	57	65	45	19	26
2000年度	69	35	34	47	23	24
計	401	212	189	179	84	95

- 2) 測定期間 1997年3月～2000年11月

3) 測定内容

1. 子どもへの面接

a 小学校入学に対する不安について

山内ら（1996）の意識調査の結果を参考にして、11項目を選んだ。内訳は「起床」「登校」「勉強」「友達」「着脱」「着席」「トイレ」「給食」「遊び」「先生」「健康」である。実施は卒園間近な3月に行った。

手続きは、園の一室で図版を用いて個別に発表者およびトレーニングされた者が面接した。子どもに小学校の絵であることを説明し、「とても不安」から「とても不安でない」までの4段階での評定を求めた。

b 小学校入学後の不安について

小学校入学に対する不安と同一の図版を用い、小学校1年次の11月に同様の手続きで実験を行った。

2. 保護者への質問紙

子どもへの面接と同様の項目について、「とても不安」から「とても不安でない」までの4段階で評定してもらった。

3. 教師評定

子どもの日常の行動について、「積極性」「消極性」「協調性」「遊び」「知的活動」の25項目について6段階で、卒園時（3月）に担任の教師に評定してもらった。

《3》結果

1. 小学校入学前の不安は、全体に保護者の方が高い傾向であった。有意な差があった項目は、1%水準で「起床」「登校」「勉強」「友達」「着席」「給食」「遊び」「先生」「健康」であり、5%水準で「トイレ」であった（図1）。

2. 子どもの入学前と後の変化をみると、入学後に不安が高くなった項目は「登校」のみが1%水準で有意であった。入学後の不安が低くなった項目は「登校」「遊び」が1%水準で、「勉強」「着

脱」「給食」が5%水準で有意であった(図2)。

3. 4年間の変動を見ると、図3-①のトータル値では、保護者の不安は98年からあまり変化はみられず、子どもの入学前後の不安は低くなっている傾向があった。項目ごとでは、親の不安が高まっている項目として「起床」「勉強」「着脱」「トイレ」があげられ、子どもの入学前後に、年次的な変化は見られなかった。

図3-④の「勉強」に関して、1997年度は子どもも保護者も不安傾向の高い項目であったが、子どもの不安が低下する傾向にあり、入学後も同じ傾向であった。

4. 表1の教師の5項目の行動評定と不安(トータル値)の間には相関はなく、小学校入学に関する不安と園での行動特性の間に関連は見られなかった。

5. 変化の大きい子どもの事例は当日発表する。

表1. 子どもの不安と教師評定の相関係数

積極性	消極性	協調性	遊び	知的活動
0.056	-0.139	0.032	0.154	0.081

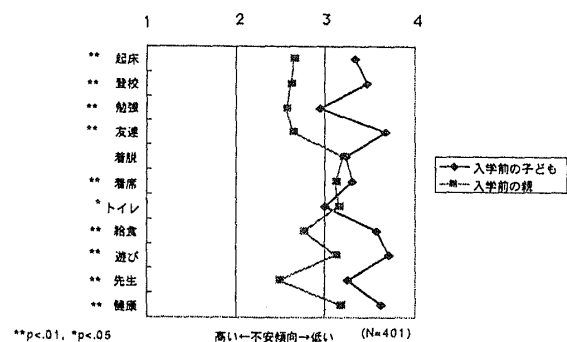


図1. 入学前の保護者と子の比較(97年度~2000年度)

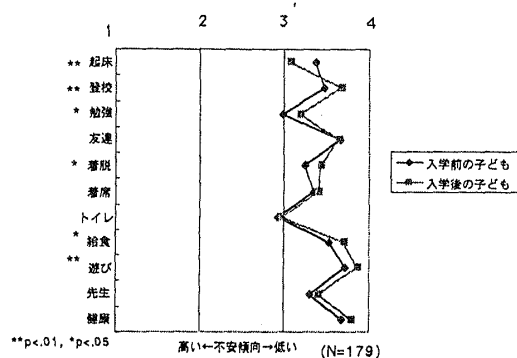


図2. 子どもの入学前後の変化(97年度~2000年度)

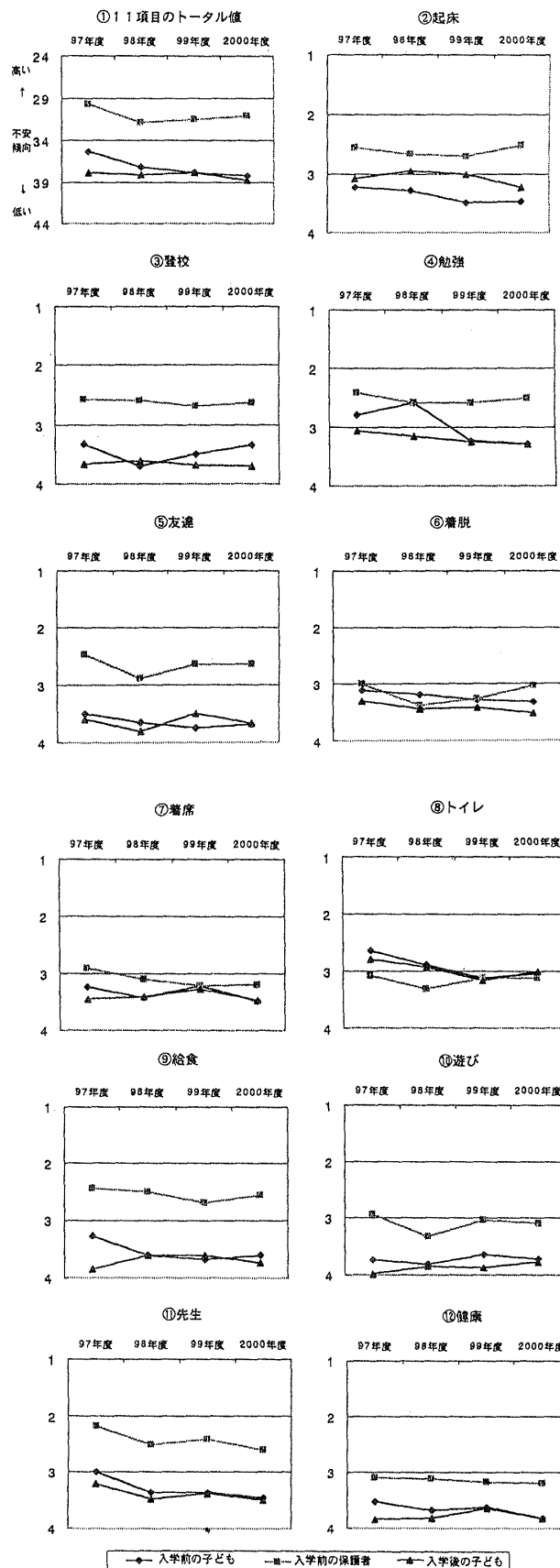


図3. 11項目のトータル値及び各項目の4年間の変動(97年度~2000年度) N=179